

第2章 小郡市の文化財の概要

1. 指定等文化財

小郡市には、文化財保護法や福岡県文化財保護条例、小郡市文化財保護条例に基づいて指定・登録された文化財が所在しています。このうち、県立の歴史系博物館である九州歴史資料館に展示・保管されている他市町村所有の資料を除くと、その数は32件（令和7（2025）年8月時点）です。

内訳は、国指定文化財2件、県指定文化財7件、市指定文化財20件、国登録文化財3件で、国や市によって選定された文化的景観・伝統的建造物群・文化財の保存技術はありません。記録選択された無形文化財や無形の民俗文化財也没有ありません。また、市の文化財保護条例に基づく登録制度がありますが、現在のところ登録物件はありません。

類型			国指定 ・選定	県指定	市指定	国登録	市登録	記録 選択	計
有形文化財	建造物		0	0	4	2	0	—	6
	美術工芸品	絵画	0	0	0	0	0	—	0
		彫刻	0	1	2	0	0	—	3
		工芸品	0	0	0	0	0	—	0
		書跡・典籍	0	0	0	0	0	—	0
		古文書	0	0	0	0	0	—	0
		考古資料	1	3	2	0	0	—	6
		歴史資料	0	0	3	0	0	—	3
無形文化財		0	0	1	0	—	0	1	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	—	—	0	
	無形の民俗文化財	0	0	1	0	—	0	1	
記念物	遺跡		1	2	4	0	—	—	7
	名勝地		0	0	0	1	—	—	1
	動物・植物・地質鉱物		0	1	3	0	—	—	4
文化的景観			0	—	0	—	—	—	0
伝統的建造物群			0	—	0	—	—	—	0
文化財の保存技術			0	—	—	—	—	—	0
計			2	7	20	3	0	0	32

小郡市に所在する指定等文化財の件数

〔国指定文化財〕

類型		名称	所在地	指定年月日
有形文化財	考古資料	小郡若山遺跡土坑出土品 一括	三沢 (文化庁所蔵)	平成 10 年 10 月 16 日
記念物	遺跡	小郡官衙遺跡群 小郡官衙遺跡 上岩田遺跡	小郡・上岩田	昭和 46 年 12 月 13 日 ほか

〔福岡県指定文化財〕

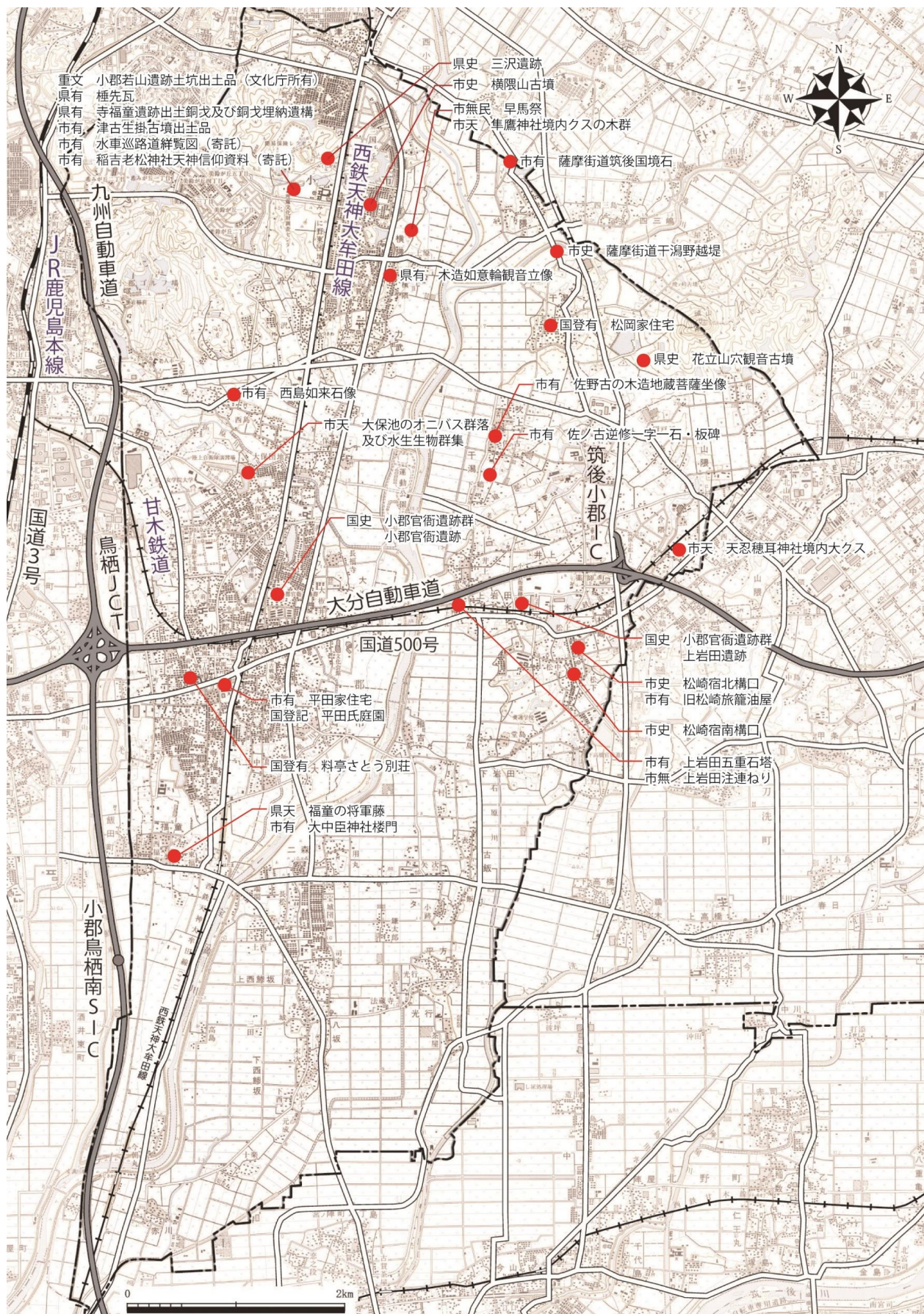
類型		名称	所在地	指定年月日
有形文化財	彫刻	木造如意輪観音立像 一軀	横隈	昭和 52 年 4 月 9 日
有形文化財	考古資料	極先瓦 五点	三沢	昭和 35 年 4 月 12 日 ほか
有形文化財	考古資料	極先瓦 一点	三沢	昭和 35 年 8 月 16 日
有形文化財	考古資料	寺福童遺跡出土銅戈及び銅戈埋納遺構切取資料 九口及び一点	三沢	平成 28 年 3 月 25 日
記念物	遺跡	三沢遺跡	三沢・あすみ	昭和 53 年 3 月 25 日 ほか
記念物	遺跡	花立山穴観音古墳	干潟	平成 19 年 2 月 5 日
記念物	動物・植物・地質鉱物	福童の將軍藤	福童	昭和 45 年 5 月 2 日

〔小郡市指定文化財〕

類型		名称	所在地	指定年月日
有形文化財	彫刻	西島如来石像	三沢	昭和 61 年 3 月 18 日
有形文化財	彫刻	佐野古の木造地藏菩薩坐像	佐野古	令和 6 年 2 月 21 日
有形文化財	考古資料	上岩田五重石塔	上岩田	昭和 61 年 3 月 18 日
有形文化財	考古資料	津古生掛古墳出土品	三沢	令和 3 年 11 月 25 日
有形文化財	建造物	大中臣神社楼門	福童	平成 3 年 9 月 19 日
有形文化財	建造物	旧松崎旅籠油屋 主屋一棟 座敷一棟	松崎	平成 13 年 12 月 20 日
有形文化財	建造物	薩摩街道筑後国境石 (乙隈境石)	乙隈	平成 26 年 10 月 21 日
有形文化財	建造物	平田家住宅 主屋一棟 座敷四棟 門二棟 瓦堀一棟 付 主屋棟札一面	小郡	平成 28 年 8 月 16 日
有形文化財	歴史資料	水車巡路道 絆寛図 付 台帳六冊	三沢	平成 20 年 7 月 16 日
有形文化財	歴史資料	佐ノ古逆修一字一石・板碑	吹上	平成 26 年 10 月 21 日
有形文化財	歴史資料	稲吉老松神社天神信仰資料	稲吉	令和元年 8 月 29 日
無形文化財		上岩田注連ねり (人形じめ)	上岩田	平成 17 年 12 月 20 日
民俗文化財	無形の民俗文化財	早馬祭	横隈	平成 10 年 8 月 1 日
記念物	遺跡	松崎宿南構口	松崎	昭和 51 年 8 月 1 日
記念物	遺跡	松崎宿北構口	松崎	昭和 51 年 8 月 1 日
記念物	遺跡	薩摩街道干潟野越堤	干潟	平成 29 年 8 月 21 日
記念物	遺跡	横隈山古墳	三国が丘	令和 3 年 11 月 25 日
記念物	動物・植物・地質鉱物	天忍穂耳神社境内大クス	今隈	平成 15 年 11 月 25 日
記念物	動物・植物・地質鉱物	隼鷹神社境内クスの木群 (クスノキ 3 本)	横隈	平成 15 年 11 月 25 日
記念物	動物・植物・地質鉱物	大保池のオニバス群落及び水生生物群集	大保	令和元年 8 月 29 日

〔国登録文化財〕

類型		名称	所在地	登録年月日
有形文化財	建造物	松岡家住宅 母屋一棟 倉庫一棟 玄関門一棟 門柱一基 堀一基	干潟	平成 27 年 8 月 4 日
有形文化財	建造物	料亭さとう別荘 玄関棟一棟 広間棟一棟 門一棟	小郡	令和 3 年 6 月 24 日
記念物	名勝地	平田氏庭園	小郡	平成 30 年 2 月 13 日



(1)有形文化財

有形文化財は国指定1件、県指定4件、市指定11件、国登録2件の18件です。内訳は建造物が6件、美術工芸品のうち彫刻が3件、考古資料が6件、歴史資料が3件で、絵画や工芸品、書跡・典籍、古文書の指定はありません。

① 建造物



旧松崎旅籠油屋

指定された建造物の多くは、江戸時代後半から昭和時代初頭にかけて建てられた、交通や生業に関連するものです。

旧松崎旅籠油屋（市指定）は、延宝6（1678）年に参勤交代道に定められた薩摩街道の宿場町である松崎にあります。主屋と座敷の2つの棟からなる、大型の旅籠建築です。現存する建物は幕末に建てられたもので、主屋の2階は一般の旅行者の、座敷は賓客の宿泊に使われていました。

平田家住宅（市指定）は、江戸時代の往還である彦山道沿いの在郷町である小郡にあります。蠟産業で財産を築いた平田氏の邸宅で、主屋と複数の座敷を廊下や橋でつなぐ構造が特徴です。それぞれの建物は、幕末から昭和初期にかけて順次建てられ、その間には石や植栽を配置した庭園が造られています。

このほか、松崎から薩摩街道を北上した筑紫野市との市境（旧筑後・筑前国境）には、薩摩街道筑後国境石（乙隈境石）（市指定）があります。現在のものは天保年間（1830～1843）に造られました。社寺では天保6（1835）年に再建の記録がある大中臣神社の楼門（市指定）、住宅では大正12（1922）年に上棟した記録がある松岡家住宅（国登録）、大正14（1924）年竣工の料亭さとう別荘（国登録）があります。

② 美術工芸品



如意輪観音立像

〔彫刻〕

指定された彫刻はいずれも仏像で、古くから地域の人びとに信仰されてきたものです。

平安時代後期に作られた如意輪観音立像（県指定）は、横隈にある如意輪寺の本尊で、子安観音として筑後地方一帯の信仰を集めてきました。如意輪観音像は腰を下ろした姿であることが多く、立ち姿のものは貴重です。12年に一度、巳年の一定期間だけ開帳されています。

このほか、元享2（1322）年に作られた西島如来石像（市指定）、室町時代の作とされる佐野古の木造地藏菩薩坐像（市指定）があります。

[考古資料]

当市は古くから遺跡の存在が知られており、発掘調査の件数も多いため、さまざまな考古資料が指定されています。

津古生掛古墳出土品（市指定）は、前方後円墳の副葬品である方格規矩鳥文鏡 1 面、鉄剣 1 振、ガラス小玉 57 個、鉄鏃 31 本と、周溝で見つかった鶏形土製品 3 個体が指定されています。ガラス小玉に含まれる成分や鉄鏃の形の特徴が、ヤマト王権の所在する近畿地方で見つかったものと似通っており、このころからの強いつながりを示しています。



津古生掛古墳出土 鶏形土製品

このほか、弥生時代のマツリに用いられた銅鏡と弥生土器が地中に埋納された状態で見つかった小郡若山遺跡土坑出土品（国指定）、寺福童遺跡出土銅戈（県指定）、飛鳥時代に井上の寺院で使われていた榎先瓦（県指定）、元徳 2（1330）年に地域の人びとの安寧を願って作られた上岩田五重石塔（市指定）があります。

[歴史資料]

歴史資料には、地域の人びとの信仰や商業に関する資料が指定されています。

稲吉老松神社天神信仰資料（市指定）は、菅原道真の生涯と霊験を描いた「縁起絵」と呼ばれる掛軸 2 幅、松図と紅梅図の掛軸各 1 幅、神社の縁起を記した巻物 1 巻、綴本 1 冊が指定されています。このうち「縁起絵」には稲吉老松神社が描かれており、天神への信仰が地域の人びとに身近なものであったことを示しています。



稲吉老松神社天神信仰資料（部分）

このほか、天文 22（1553）年に造られた佐ノ古逆修一字一石板碑（市指定）、商用の地図として福岡県や佐賀県の各所を描いた明治 20（1887）年作の水車巡路道綵覧図（市指定）があります。

(2) 無形文化財

無形文化財は市指定が 1 件あり、国の指定・記録選定、県の指定を受けたものではありません。

上岩田注連ねり（市指定）は、別名の「人形じめ」が示すように、人の形をした注連縄を作って奉納する行事です。秋の収穫に感謝する行事で、その年の新しい稲藁を使い、上岩田老松神社の拝殿に納める大じめ 1 体と、境内の巨石に納める小じめ 3 体を作ります。



上岩田注連ねり

(3) 民俗文化財

民俗文化財のうち、有形の民俗文化財の指定はありません。無形の民俗文化財は市指定が1件で、国の指定・記録選定、県の指定を受けたものではありません。

① 無形の民俗文化財

無形の民俗文化財には、五穀豊穰^{ごこくほうじょう}と家内安全を願う初冬の行事が指定されています。

早馬祭^{はやまい}（市指定）は、早馬と呼ばれる馬を担いで氏子の家々を回る行事です。馬はその年の新しい稲藁で作られ、筒形の胴体にたてがみを示す綱がついています。このような形の馬はほかでは見られない小郡市独特のものですが、その由来は不明です。

(4) 記念物

記念物は国指定1件、県指定3件、市指定7件、国登録1件の12件あります。内訳は遺跡が7件、名勝地が1件、動物・植物・地質鉱物が4件です。

① 遺跡



花立山穴観音古墳

遺跡には、古墳や官衙^{かんが}のような支配者層に関わるもの、江戸時代の街道に関わるものが多く指定されています。

花立山穴観音古墳^{はなたてやまあなかんのん}（県指定）は、花立山の麓にある古墳時代後期の前方後円墳で、石室の壁には線を刻み込んだ装飾があります。花立山には、ほかにも300基以上の円墳や横穴墓^{えんぶん よこあなぼ}があり、指定された古墳との関係や埋葬された人びとの生活の場などについて、考古学的に注目されています。



小郡官衙遺跡群 小郡官衙遺跡

小郡官衙遺跡群（国指定）は、飛鳥時代から奈良時代にかけての御原郡^{みはらくん}の行政機関です。飛鳥時代の上岩田遺跡と、奈良時代の小郡官衙遺跡の2カ所が合わせて指定されています。

薩摩街道干潟野越堤^{ひかたの ぐしえい}（市指定）は、江戸時代の参勤交代道の路肩に造られた石積の施設です。隣接する川が氾濫したときに、一体になっている堤防と街道が水圧で崩壊しないよう、水をせき止め、誘導する役目を持っています。



薩摩街道干潟野越堤

このほか、弥生時代の集落である三沢遺跡^{みつさわ}（県指定）、古墳時代中頃の前方後円墳である横隈山古墳^{よこぐまやま}（市指定）、江戸時代の宿場町・松崎の出入口である松崎宿南構口・北構口^{かまえぐち}（市指定）があります。

② 名勝地

名勝地には、平田家住宅（市指定）の敷地内にある近代の庭園が登録されています。

平田氏庭園（国登録）は、小郡市と鳥栖市で造園にたずさわった松尾仙六の手によるものです。主庭には、水の流れとそれを受ける池、巨岩を加工した滝石組が建築物の間をぬうように配置され、平田家住宅の全ての建物から鑑賞できるように造られています。



平田氏庭園

③ 動物・植物・地質鉱物

動物・植物・地質鉱物には、歴史的な伝承を持つものと自然に自生するものが指定されています。

福童の將軍藤（県指定）には、南北朝時代の九州で繰り広げられた大保原合戦に関する伝承があります。この戦いで深手を負った南朝方の征西將軍宮・懷良親王が、大中臣神社に治癒を祈願し、回復した証しに感謝を込めて奉納した藤と伝えられています。



福童の將軍藤

このほか、仲哀天皇と神功皇后にまつわる伝承を持つ隼鷹神社境内のクスの木群（市指定）、平成 29（2017）年に生育が確認された大保池のオニバス群落と水生生物群集（市指定）があります。

市の木・クスノキのモデルとなった天忍穂耳神社境内の大クス（市指定）は、平成 30（2018）年の豪雨の際に雷の直撃で幹に大きな被害を受けました。樹勢の回復に必要な栄養が幹に回るよう、枝の大幅な剪定をして、現在は経過観察を行っています。



天忍穂耳神社境内の大クス
（平成 27 年撮影）

(5) 文化的景観

選定された文化的景観はありません。

(6) 伝統的建造物群

選定された伝統的建造物群はありません。

(7) 文化財の保存技術

選定された文化財の保存技術はありません。

(8) 関連する制度

文化庁が食文化の継承と振興を目指して進めている「100 年フード」の取り組みにおいて、当市に江戸時代から伝わる食文化である鴨料理が認定されています。

2. 未指定等文化財

未指定等文化財については、平成3（1991）年度に始まった『小郡市史』の編纂の際と、平成24（2012）年度～28（2016）年度に文化遺産再発見事業として実施した調査で把握しています。この中には指定・登録すべき価値を持つものも多く含まれていますが、専門的な調査ができておらず、大半は未指定・未登録の状態です。

現在把握できている未指定等文化財は総数 20,329 件で、有形文化財 17,043 件（うち建造物 928 件、美術工芸品 16,115 件）、無形文化財 28 件、民俗文化財 864 件（うち有形の民俗文化財 778 件、無形の民俗文化財 86 件）、記念物 424 件（うち遺跡 295 件、名勝地 20 件、動物・植物・地質鉱物 109 件）、文化的景観 96 件、その他の文化財 1,874 件です。

今後も、地域からの情報提供を募り、既往の調査の成果を基にした現況調査や、指定を視野に入れた専門的な調査を進める必要があります。

類型／中学校区			立石中 校区	宝城中 校区	三国中 校区	小郡中 校区	大原中 校区	計
有形文化財	建造物		256	229	130	182	131	928
	美術工芸品	絵画	9	11	11	4	3	38
		彫刻	283	361	115	162	141	1,062
		工芸品	3	2	0	0	1	6
		書跡・典籍	0	0	0	0	0	0
		古文書	3,570	3,066	1,684	4,923	1,443	14,686
		考古資料※	6	2	21	8	3	40
		歴史資料	81	77	49	50	26	283
無形文化財		8	9	4	3	4	28	
民俗文化財	有形の民俗文化財		200	224	113	130	111	778
	無形の民俗文化財		12	25	23	15	11	86
記念物	遺跡		106	40	63	48	38	295
	名勝地		6	2	2	1	9	20
	動物・植物・地質鉱物		31	22	12	27	17	109
文化的景観			32	25	10	18	11	96
伝統的建造物群			0	0	0	0	0	0
その他の文化財	伝承		133	132	89	85	93	532
	地名		281	453	149	245	114	1,242
	地域資源		11	35	15	15	21	97
	人物史		1	2	0	0	0	3
計			5,029	4,717	2,490	5,916	2,177	20,329

※埋蔵文化財調査センターで保管している考古資料（約7万点）を除く

小郡市内の未指定・未登録文化財の件数（市史編纂時調査及び市内文化遺産調査、伝承等文化資源調査より作成）

(1)有形文化財

① 建造物

建造物は、社寺に建てられたものや民家、鳥居などを把握していますが、建立時期が江戸時代までさかのぼれるのは、吹上^{ふきあげ}神社の拝殿などごくわずかです。黒岩稲荷神社には、明和2（1765）年に久留米藩8代藩主である有馬頼^{よりたか}貴が寄進した鳥居があります。

近代の建築物には、大正時代に建てられたとされる松崎の三^み原家洋館や、昭和9（1934）に竣工した旧小郡村役場（現・井^い手運送）があります。



三原家洋館



旧小郡村役場

② 美術工芸品

絵画は、社寺のものを中心に把握しています。浄土真宗^{じょうどしんしゅう}の寺院に残る御絵伝^{ごえでん}のほか、熊本県出身の日本画家である甲斐青^{かいせい}萍^{ひょう}が大保原合戦を描いた屏風があります。

彫刻は、社寺の境内や集落にある石造物が多くを占めます。石祠^{いしほくら}や狛犬^{こまいぬ}、灯籠などで、ほとんどが近世から近代にかけて作られたものです。

工芸品には、松崎の霊^{りょう}鷲^{じゅう}寺^じが所蔵する鑄銅製の仏具、八坂^{やさか}の若宮八幡神社に奉納された鉄製幡^{はた}があります。

書跡・典籍・古文書は、市内の行政区に伝えられた区有文書^{くゆうぶんしょ}を多数確認しています。多くは近代から現代のものですが、江戸時代の農地管理や宮座の運営についての記録も残されています。個人宅で所有されている古文書には、江戸時代の宿場町に関する史料^{りょう}、蠟取引に関する史料^{いなしげき}、稲吉堰の普請に関する史料^{ふしん}を確認しています。

考古資料には、上岩田遺跡出土の瓦、小郡官衛遺跡出土の鉄^{てつ}鍬^{くわ}など、指定文化財の価値がある資料が多数あります。

歴史資料には、道路開削や水門建設などの記念碑が多数あります。めずらしいものとしては、江戸時代に筑紫野市・佐賀県^{さか}三^み養^や基^き郡^{ぐん}基^き山^{さん}町^{ちょう}との境界に置かれた、筑後・筑前・肥前^{みくに}の三国^{みくに}境^{さかい}石^{いし}や、寛政5（1793）年の松尾芭蕉^{まつお ばしょう}の百年忌に建てられた胡蝶塚^{こちょうづか}があります。



大原合戦図屏風（部分）



三国境石

(2)無形文化財

過去の文化財調査によると、市内で刀剣の鞘づくりの職人を把握しています。また、把握調査においても、弓具の製作者を把握しています。

(3)民俗文化財

① 有形の民俗文化財

有形の民俗文化財は、農業に関する資料が中心です。昭和 30 年代から急速に機械化が進み、現在は資料そのものだけでなく、使用方法の情報も失われつつあります。これまでの調査では、使い方や当時の生活についての聞き取りも行っています。



上げ舟（揚げ舟）

市南部の平野部は、宝満川^{ほうまんがわ}や秋光川^{あきみつがわ}といった支流が筑後川に合流する地点に近いので、頻繁に洪水に見まわられてきました。そのため、水害に備えた木舟を各所に用意していました。普段は建物の天井や軒下に吊り下げておき、洪水の際には避難や家財道具の運搬などに使用しました。陸に上げ、さらに高い位置に置くことから、上げ舟（揚げ舟）または吊り舟と呼ばれます。長さは5～6 m、幅は1 m 前後と大型で、個人が持つのではなく、集落や村単位で所有していました。

このほかに、当市に特有の生業として鴨猟があります。この猟には、無双網^{むそうあみ}という網を使用します。干潟^{ひがた}や湿田^{しつてん}に糲^{もみ}を撒いて鴨をおびき寄せ、杭や手縄を組み合わせた仕掛けを用いて、網を覆い被せるといった手法です。網は長さ 20m、幅 2 m と長尺^{ちようじやく}で、一度に大量の鴨が捕まえられます。



粥占い

② 無形の民俗文化財

無形の民俗文化財は、農業に関わりの深い行事を把握しています。作物の収穫や気候を占う粥占^{かゆ}い、水神に対するダブリュウや川祭り（川まつり）の行事、五穀豊穰^{ごこくほうじょう}を願う獅子舞、収穫に感謝する名月^{めいげつ}さんなどがあります。

粥占いは、大保の御勢大霊石神社と福童の大神臣神社で行われています。やわらかく飯を炊き、これを神前に供えて1カ月ほど置きます。これについてカビの色や形状で、その年の収穫の良否を占います。

ダブリュウは、駄風流もしくは馬風流とも書き、農作業に欠かせない牛や馬を洗って川の水を汚したことを水神に詫げるための祭りです。笹竹に、米やイリコを入れた藁苞^{わらづと}を下げ、川辺や水路の岸に立てて神事を行います。川祭り（川まつり）は、地域によってはダブリュウと同じ行事を指すこともあります。多くは農業用の水路や隣接する石祠、水神をあらわす石碑の前で行う神事のことです。福童の川祭りは、水路の中に竹で櫓^{やぐら}を組み、そこで神事を行います。

当市の獅子舞は、獅子追^おいもしくは獅子廻^{まわ}しとも言い、田植えの疲労を癒^{いや}すサナボリの行事として行われてきました。五穀豊穰^{むびょうそくさい}と無病息災を願って集落の中を巡回し、最後に氏神を参ります。伝統的な神事や供物^{はやし}などの多くは途絶えています。現代に合った形に変わり、市内の10カ所で継承されています。



上西の獅子舞

名月さんは、旧暦の8月15日に中秋の名月を鑑賞し、農作物の収穫に感謝する行事です。あわせて旧暦9月13日にも行います。8月には里芋を、9月には栗や豆を供えるため、それぞれ芋名月、栗名月・豆名月とも呼ばれます。8月の名月さんでは、子どもたちが「名月さーんなーあーげたの、あーげたなーら引かせんのー」と歌いながら家々を回り、供物を分けてもらう風習があります。

このほかにも、正月の火祭りである左義長^{さぎちやう}（さぎっちょ）、子どもの健やかな成長を願う初七夕^{はつたなばた}などを把握しています。

(4) 記念物

遺跡については、県と市の遺跡等分布調査で把握しています。しかし詳細な調査が行われていないため、未指定のものが多くあります。また大刀洗飛行場^{たちあらい}に近接していることから、近代の戦争関連遺跡も存在しますが、本格的な調査はまだ行っていません。名勝地は、国登録記念物である平田氏庭園と同じく松尾千六が作庭した、河原氏庭園を把握しています。

動物は、令和元（2019）年からコウノトリの飛来を確認しています。植物は、国（環境省レッドリスト2020）や県（福岡県レッドデータブック2011）に絶滅危惧種^{ぜつめつ きぐしゆ}とされているツクシオオガヤツリとオニバスが生育していることを確認しています。地質鉱物は、特異な自然の現象の生じている土地を含めて把握できていません。

(5) 文化的景観

文化的景観は、江戸時代の街道沿いと宝満川周辺の田園地帯で確認しています。現在でも旧道の一部が残り、これに沿って石祠や道標^{どうひょう}などが一連の風景を作り出しています。また、市域の南部に広がる田圃^{たんぼ}と灌漑のための水路、そこで行われる祭りの景色は、豊かな実りを得るための先人たちの尽力が生み出したものです。



味坂の田園風景

(6) 伝統的建造物群

当市では、周辺の環境と一体となって歴史的風致を形成する伝統的建造物群は把握できていません。

(7)その他の文化財

① 伝承

伝承は、市内在住者への聞き取り調査を行い、主に昭和時代の生活習慣や風習、行事、街の景観について確認しています。また、第二次世界大戦中の暮らしについてもさまざまな証言を得ています。

② 地名

地名は『小郡市史』を編纂^{へんさん}した際の、近代の字図などをもとにした調査で把握しています。当市の小字名や通名の多くは、古代の条里制^{じょうりせい}や近世の開拓、田畑の状態など農業に由来するものです。

③ 地域資源

近年生まれた、これからも伝えていきたい地域コミュニティの行事や自然環境、風景などを地域資源とし、文化財の把握調査で現況や歴史的背景などを確認しています。

④ 人物史

当市の歴史文化には多くの人びとが関わっていますが、代表的な人物が3人います。

[高松 凌雲^{たかまつ りょううん}]

天保7（1836）年、古飯村^{ふるえ}の庄屋の三男として生まれ、江戸^{えど}や大坂^{おおさか}で医術を学びました。慶応元（1865）年には徳川御三卿^{ごさんきやう}のひとつ一橋家^{ひとつばし}に仕え、一橋慶喜^{よしのぶ}が15代将軍になると幕府の奥詰医師となります。箱館戦争^{はこだて}に従軍した際、負傷者は敵味方の区別なく治療し、中立の立場で終戦交渉に協力しました。凌雲のこの思想は、日本における赤十字精神のはじまりとされています。

[田中 新吾^{たなか しんご}]

嘉永2（1849）年、下西鯨坂村^{しもにしあじさか}で生まれました。明治14（1881）年に県会議員に当選し、その後23年間議員を務めます。光行村出身^{みつゆき}で同じく県会議員である佐々木正蔵^{ささき まさくら}とともに、洪水被害の多発していた筑後川の改修工事を実現させました。54歳で政界を引退、その後は地元の農事改良に力を尽くし、稲の白葉枯病^{しろはかれ}に強い新品種「三井神力」^{み い しんりき}を開発しました。

[野田 宇太郎^{のだ うたろう}]

明治42（1909）年、立石村松崎で生まれ、少年時代から詩や文学に親しんで育ちました。学生時代から詩人・作家として活動し、昭和15（1940）年には、編集者として東京の出版社に勤務しました。昭和26（1951）年からは、偉大な文学者たちの足跡をたどり、記録にとどめるため「文学散歩」の名称で新聞記事の連載を始めます。「文学散歩」は34年間書き続けられ、その範囲は国内だけでなく海外にも及びました。